

Title	小売業の販売データ分析に関する一考察 - コンビニPOSデータのデータマイニング -
Sub Title	
Author	秋永, 泰広(Akinaga, Yasuhiro) 池尾, 恭一
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2004
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2004年度経営学 第1923号 その他:非公開
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002004-1923

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文要旨

所属ゼミ	池尾研究会	学籍番号	80328015	氏名	秋永 泰広
(論文題名)					
小売業の販売データ分析に関する一考察 ーコンビニ POS データのデータマイニングー					
(内容の要旨)					
<p>コンビニの成長要因のうち、POS システムによる販売管理は、売上管理、在庫管理などの会計業務に飛躍的な効率化をもたらし、商品の売れ筋や死に筋の管理などの営業面などで効果をあげてきた。現在では、全てのコンビニの各店舗とコンビニ本部はオンラインの回線で結ばれ、どの店舗で、いつ、何が売れたかを把握できるようになっている。</p> <p>そのため、「コンビニで一番売れているおにぎりの具は何？」と問われれば、即座に、「ツナおにぎり」と回答できる。「先週売れたトップ 10 は？」と聞かれれば、「1 位ツナ、2 位うめ・・・」と回答することも可能である。このような単品管理のデータを用いて、売れない商品をカットして、新商品を投入するという意思決定を繰り返し行い売場の効率性を高めている。</p> <p>POS で管理する販売データは、商品の単品の販売データに関しては非常に長けている。一方、例えば、「おにぎりを買う人は、1 度に何個買う人が多いの？その分布は？」や「おにぎりを 2 個買う人の具の組み合わせで最も多いパターンは？」と聞かれてもすぐには答えられない。このように購入商品間の分析が不足していることが、本研究で明らかにしたいと考えた問題点である。さらに、その購入商品間の分析結果から、何らかの法則性や規則性を発見することで、店頭マーケティングや新商品開発につながる示唆を与えることができないかというのが次の課題である。</p> <p>従来は、数十万もの POS データを分析することは物理的に不可能であったが、現在は、コンピュータの高性能化、解析ソフトの高度化したことによりデータマイニングの手法を使用することが可能になった。データマイニングを使って、不特定多数の個人個人が選択した買物履歴のデータを分析することで、1 人 1 人の個人の購買データの分析とは異なる消費者行動の新たな法則や傾向を探ることを本研究のテーマとしている。</p>					